海上

海上町蛇園・還来寺

寺に城主の供養塔

一人で四人の名使い系譜混乱

海上町蛇園の山麓に真言宗の還来寺がある。

この寺に海上城主・海上筑後守、浄照院常光院常光法師正恒の供養塔があることはあまり知られていない。

供養塔は寺の石段を上り、古い堂（阿弥陀）の右側、椎名氏の墓地内にある。

何故、海上城主の墓石が椎名氏の墓地にあるのかその由来は不詳だが、地元の郷土史家・服部重蔵氏（故人）の調べによる由来記が墓地内に建立されている。

これによると、銘文は摩滅して判読困難だが、左側に「海上城主筑後守胤秀長男・十郎」と読める部分がある。

思うに、同じ千葉氏の流れを汲む椎名氏が主筋か姻戚にあたる正恒等の供養のために墓石を還来寺に建立したものであろう。

また「服部重蔵撰書、椎名喜左衛門建之」とある。

いずれにせよ椎名氏と海上城主との関係は相当深い間柄にあったことは事実としても、今回はその真意まで確認することは出来なかった。

椎名氏の墓域は、間口七㍍、奥行二・七㍍、墓石は十六基もあるかなり大きい墓域で、その周辺は椎名一

族で占めている。

城主の供養塔は櫛形で、総高が九四㌢、横幅二七㌢、正面の銘は「先祖代々浄照院常光法師尊儀」とあり、右側に「宗岸大居士」そして「天正六寅（一五七八年）七月十四日」と「天正十六年三月五日」、左側には「妙譽光大姉・天正十四年十月十三日」と読める。

最近の調査では、常照院常光法師は、海上城主の十四代で、従来の説では重坊と正恒とは別人と考えられていたが、位牌や過去帳（小長谷家）から同一人物で、一人で四つの名を持っていた。

即ち、「重坊」は蔵人入道胤保で、海上筑後守重郎（十郎）高溢、正恒といい、法名を浄照院常光法師（天正六年七月十四日）であることが確認されている。

また、右側にある宗岸大居士は第十五代城主で、重坊の長子で、過去帳によると、「大阪より下り、葬す」と名を重郎宗春（海上平之助）法名を浄栄院殿宗岸大居士といった。

奥方は妙譽光大姉・寛永五戊寅辰（一六二八年）八月二十四日海上室とあり、従来の説と相違しているが、重坊と宗岸大居士は同一人物とされていたが、全く別人で親子関係であったことが判明している。

このあたりの関係は今後の調査を行い、見直したうえ海上城主の系譜を修正する必要がありそうだ。

※海上城主は中島城主。